

# 音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

Introduction of the Rubrics in the practical skill subject of the music department

横溝 聡子\*      磯部 哲夫\*      南川 肇\*      深谷登喜子\*  
Toshiko YOKOMIZO      Tetsuo ISOBE      Hajime MINAMIKAWA      Tokiko FUKAYA

In late years it is demanded development and the clear statement of the scholastic evaluation standard in university education becoming it, and various evaluation methods and utilization are introduced.

In this junior college music department, We introduced Rubrics in last year, the article of the study that was a graduate. An evaluation standard became clear, and by this Rubrics, the standardization of the evaluation of plural raters planned it and was able to get the effectiveness as one marking method. As the next stage, We performed a trial to take in Rubrics as an evaluation method for the performances of the practical skill.

In this report, We perform the inspection with the marking method of the way of the Rubrics as the performance evaluation and the conventional method and want to consider a future problem.

## はじめに

近年、大学教育において成績評価基準の策定や明示化が求められており、様々な評価方法や活用法が導入されている。ルーブリックもその評価方法の一つである。中央教育審議会が、平成24年8月28日に取りまとめた「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」の用語集では、「ルーブリック」とは「米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である『尺度』と、尺度を満たした場合の『特徴の記述』で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある」と定義されている<sup>1)</sup>。音楽や美術などの芸術分野での評価は、評価者の主観や経験が大きく影響する部分があり、抽象的かつ曖昧である。パフォーマンスの評価に向くとされるルーブリック評価の研究は、小・中学校の音楽や美術の授業に対して盛んに行われてきている。本学では生活芸術科においてルーブリック評価の研究が行われ、「美術・デザイン系科目においてルーブリック評価導入は

---

\* 音楽科

妥当である」とされた<sup>2)</sup>。大学教育における音楽実技科目の研究はまだ進んでいるとは言えないが、寺田・小林<sup>3)</sup>や高瀬<sup>4)</sup>の研究がある。いずれも初歩の段階のピアノ演奏に対する評価の研究である。寺田らは、「演奏解釈と表現力が採点の中で非常に大きな比重を占める主科実技(専攻実技)の評価に何ができていて何ができていないという方式であるルーブリックを導入することは適切でないと判断する」<sup>5)</sup>としているが、評価の観点を明示化することは、主科実技でも可能なのではないだろうか。

本学音楽科では、昨年度卒業研究の論文に対するルーブリック評価を導入した。ルーブリックにより、漠然としていた評価基準が明確になり、複数の評価者の評価の標準化が図られるなど、一つの採点方法としての有効性を得ることができた。そこで、次の段階として、実技の演奏(パフォーマンス)に対する評価方法としてルーブリックを取り入れる試みを行った。本稿では、パフォーマンス評価としてのルーブリック評価の在り方や、従来方式の採点法との検証を行い、今後の課題について考察していきたい。

## 1. パフォーマンス評価としてのルーブリック

本学音楽科では、主科の専攻実技として「ピアノⅠ・Ⅱ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」「管楽Ⅰ・Ⅱ」「弦楽Ⅰ・Ⅱ」があり、それぞれ通年で4単位の必修である。「弦楽」は、現在弦楽専攻の学生がいないため開講されていない。声楽専攻者は、副科として「ピアノⅠ・Ⅱ」(通年2単位)を履修し、管楽専攻者は、副科として「声楽Ⅰ・Ⅱ」と「ピアノⅠ・Ⅱ」(通年2単位)を履修することになっている。試験は1年次6月に主科の小テスト、前期末に主科と副科、後期は12月に主科の小テスト、後期末に主科、副科の試験を行っている。2年次は前・後期末にそれぞれ主科、副科の試験を行っている。音楽科専任教員全員と担当の非常勤講師で評価を行うが、非常勤講師はそれぞれの専門分野のみを評価することになっている。

今回ルーブリック評価を導入する目的は、評価基準の明示化、複数の評価者による評価の標準化、学生へのフィードバック、その評価をどのように次の指導に活かしていくかなどが挙げられよう。

ルーブリックには、完成したアサインメントで採点者が求める条件の充足を示すチェックリスト式、チェックリストに評定尺度を加えた評定尺度式、評定尺度式ルーブリックのチェック欄をパフォーマンスの簡単な説明に置き換えた説明形式などがある<sup>6)</sup>。ルーブリックを作成するにあたって、パフォーマンス評価として評価のし易さや妥当性を考え、この説明形式を採用することとした。

ルーブリックは、各専攻別に主科・副科ともに作成したが、大項目として「知識・理解(楽譜の理解・曲の解釈)」「技能(演奏技術)」「表現(表現力・ステージマナー)」「意欲・態度」

の4つの分類を共通とし、小項目は専攻ごとに必要な項目を置くことにした。各期でそれぞれの時期に身に付けるべき学習内容を基にルーブリックを作成した。ステージマナー、意欲・態度の項目の内容は全専攻共通とした。松下は「ルーブリックは『成功を評価するスタンダードと規準』も示されているので、自分に対する他者の印象を望ましいものにしようとする『印象操作』—どうふるまえば高い評価が得られるのかを考えながらパフォーマンスをすること—が行われやすくなる」と述べている<sup>7)</sup>。ステージマナーや態度などは特にそのような傾向が起きることが予想されたが、学生に2年間で確実に身に付けてもらいたい事柄として、いわゆる演奏だけに対する評価ではなく総合的に評価することを目的にそれらの項目を設けた。

また、ルーブリックは評価基準の明示化や評価の標準化を図るだけでなく、採点のしやすさも大切な要素となる。演奏を聴きながら短い時間で評価できるよう、点数は□(四角)にチェックする方法を取り入れた。評価基準としてGPAの評価である5段階評価「S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)、F(59～50)」を設定しているが、さらに細分化し、□は評価基準のSの左から、S+, S, S-, A, A-, B, B-, C, C-, F, F-となる。百点法の配点はS+(100)、S(95)、S-(90)、A(85)、A-(80)、B(75)、B-(70)、C(65)、C-(60)、F(55)、F-(50)となる。

ルーブリック評価を導入するにあたり、試験1週間前にルーブリック表を学生に提示し、実技担当教員から評価の観点を説明した。

## 2. ピアノのルーブリック評価

ピアノ実技のルーブリック評価は、各期の試験毎に課題曲が異なるので、基本となる基礎的技術や音楽表現を軸に、それぞれの評価の観点を定めて評価をすることとした。

1年前期ピアノ(主科)小テストはスケール(音階)全調が課題である。すべての楽曲を弾く場合の基礎となるテクニックである。試験場で指定する方法をとっている。音の粒を揃えること、流れを意識し、終止形では和音のバランスを良く聞くことを評価の観点としている(表1)。1年前期ピアノ(主科)の課題はハイドン及びモーツァルトのソナタである。ソナタを弾く場合は、まずソナタ形式の理解が大切である。この場合古典派という時代様式も関係してくる。特にテンポは動かないこと、粒の揃った音で弾くことを意識しなければならない。その中で音楽性を失わないことが大事なポイントとなる。それらを評価の観点とした(表2)。

2年前期ピアノ(主科)は、バッハが課題である。多声音楽であるから各声部の旋律の動き・構成等を把握しているかを観点とした。

1・2年前期ピアノ(副科)は共にバッハの作品が課題である。これらは2年前期ピアノ(主科)と同様の評価の観点とした(表3)。

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

表1 1年前期ピアノ(主科)小テスト

1年前期ピアノ(主科)小テスト(スケール) ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	音階の理解	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解しているが、まだ確実ではない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	10%
	カデンツの理解	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、和音の響きやバランスも大変良い。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解しており、和音の響きやバランスも良い。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解しているが、まだ確実ではない箇所や、和音の響きのバランスが悪い部分がある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分であり、ミスや和音の響きの悪い部分が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解しておらず、和音がつかめていない。	10%
技 能	運指法と奏法	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、1音1音非常によく揃って滑らかに演奏できる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解しており、1音1音揃っているが、やや滑らかさに欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解しているが、1～3か所程度が、1～3か所程度のミスがあり、音がやや不揃いである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分で、間違った指使いの部分があり、音が不揃いである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	25%
	テンポ	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ♩=120程度	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ♩=100程度	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ♩=80程度	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ♩=60程度 或はカデンツへの移行がスムーズでない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 遅すぎる。 或はカデンツへの移行がテンポから大きく外れている。	10%
表 現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	30%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 丁寧さがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	5%
意 欲・態度	・レッスンに対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおいてのマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおいての礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおいての礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くになっていない。	5%

表2 1年前期ピアノ(主科)実技試験

1年前期ピアノ(主科)実技試験(ソナタ) ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	古典派の様式やソナタ形式を理解しているか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、作曲者の作曲意図の解釈や、様式感、構成感や和声感などが感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解しており、様式感、構成感や和声感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 様式感、構成感などがやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分であり、様式感や構成感をあまり感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	20%
技 能	演奏技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に熟練性を持ち、表現と結びついた高い技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 熟練性を持ち、表現と結びついた演奏技術で、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、演奏技術がまだ十分身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲を弾くのがやっとの状態である。演奏技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。演奏技術が全く身に付いていない。	35%
表 現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	32%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いがややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いに丁寧さがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意 欲・態度	・レッスンに対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおいてのマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおいての礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおいての礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くになっていない。	5%

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

表3 1年前期ピアノ(副科)2年前期ピアノ(主科・副科)実技試験

1年前期ピアノ(副科)、2年前期ピアノ(主科・副科)実技試験 (バッハ) ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	多声音楽の様式を理解しているか。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常によく理解しており、各声部の動きや曲の構成を正確に把握している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> よく理解しており、各声部の動きや構成を把握している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 各声部の動きを把握しきれていない。構成感もやや感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 理解が不十分であり、各声部の動きが曖昧である。構成感が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く理解していない。	20%
技能	演奏技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に熟練性を持ち、各声部を正確に弾き分け、表現と結びついた高い演奏技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 各声部を弾き分けており、表現とも結びついている。確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 各声部の動きを弾き分ける演奏技術がまだ十分身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲を弾くのがやっとの状態である。演奏技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。演奏技術が全く身に付いていない。	35%
表現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わっていない。	32%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いがややごちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いに丁寧さが無い。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意欲・態度	・レッスンに対する主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くになっていない。	5%

大項目の知識・理解、技能については各専攻によって異なる観点で評価するが、表現、意欲・態度の大項目は共通する事項なので、省略する。

表4は、ピアノのルーブリック評価と昨年までのルーブリック評価を用いない演奏のインプレッション(印象)だけによる評価の、100点法採点の平均値対比である。

表4 ピアノのルーブリック評価とインプレッションによる評価の100点法の平均値対比

	ルーブリック評価	インプレッションによる評価
1年前期ピアノ(主科)小テスト、前期ピアノ(主科・副科)実技試験	75.0	74.7
2年前期ピアノ(主科・副科)実技試験	75.1	75.3
1・2年前期ピアノ(主科・副科)実技試験平均値	75.05	75.0

【考察】

課題として、それぞれの項目を言葉で記すことはある程度できるが、曖昧な表現になる場合も多い。その場合評価する側と評価される側との解釈の相違が生じる可能性がある。また、言葉あるいは文章では表現できないその場の空気感や音楽の流れ等、多分に感覚的な部分はどのように考えていくのか、あるいは埋めていくのか、評価される側の個人差のある実技の到達度の捉え方も難しい課題である。

表4では、1年前期ピアノ(主科)小テスト、前期ピアノ(主科・副科)実技試験におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は0.3点、2年前期ピアノ(主科・副科)実技試験におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は0.2点、1・2年前期ピアノ(主科・副科)実技試験平均値におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は0.05点であったことが分かった。昨年まで行っていた学生の演奏をインプレッションでつけていた評価と、評価を項目ごとに可視化したルーブリック評価では、1・2年生全体の平均でも0.05点と僅差であることが検証できた。

### 3. 声楽のルーブリック評価

1年前期声楽(主科)小テスト、1年前期声楽(主科・副科)実技試験、2年前期声楽(副科)実技試験においては、表5、6、7、8のようなマトリクス形式でルーブリックを作成し評価を行った。表5では、知識・理解の大項目に対し小項目の1つ目には、楽譜の理解力の評価として、正しいリズム、楽曲に合った拍子感、強弱、正しい位置でのプレスを評価観点とした。2つ目には曲の解釈を問う観点として、歌詞の正確さ、イタリア・バロックを理解した楽曲解釈を示した。技術面では、小項目として発声の技術、正しい母音の発音、正確なイタリア語の発音、イタリア古典歌曲のフレージングを評価観点とした。表現の小項目としては、歌詞を伴った歌唱ならではの表現力の評価として暗譜力、身体的表現を含んだ歌唱表現力、歩き方、立ち姿等、ステージ上での立ち振る舞いの評価としてステージマナー、身体的表現と歌唱表現の全体的な演奏の印象評価としてインプレッションをそれぞれ観点とした。意欲・態度においては、ピアノ、声楽、管楽器と共通の小項目として、レッスンに対しての主体性、レッスンにおけるマナーを評価観点とした。

表6と7、8では、表5より、小項目の数を減らして評価を実施した。表5の知識・理解の小項目であった、楽譜の理解と曲の解釈をより大きな観点で捉え、イタリア語の発音、イタリア古典歌曲の様式とした。技術の小項目においては、表5の発音、母音の発音、イタリア語の発音、イタリア古典歌曲のフレージングの4つの項目を、発声技術と歌唱技術の2つの項目に集約した。表現の小項目においても、表5の暗譜力、歌唱表現力、ステージマナー、インプレッションの4つの項目を、演奏表現の積極性とステージマナーの2つの項目に集約した。意欲・態度の小項目については、3回の評価とも同様の観点とした。

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

表5 1年前期声楽(主科)小テスト

1年前期声楽(主科)小テスト ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	楽譜の理解 ・リズム、拍子感、強弱、プレス	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 楽曲に合ったリズム、拍子感、強弱を理解し、プレスの箇所も正確である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> リズム、拍子感、強弱は理解しているが、楽曲に合ったものになっていない箇所が見られる。プレスの箇所は正確である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> リズム、拍子感、強弱のいずれかの要素の理解が欠けており、プレスの箇所も安定していない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> リズム、拍子感、強弱の理解が不十分であり、単語の途中でプレスをしている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> リズム、拍子感、強弱の理解が見られず、単語の途中でプレスをしている。	10%
	曲の解釈 ・歌詞 ・イタリア・バロック	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞を理解し、イタリア・バロック音楽のスタイルを理解している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞を理解しているが、イタリア・バロック音楽のスタイルを理解に不十分さが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞を理解しているが、イタリア・バロック音楽のスタイルが理解されていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞の理解があいまいで、イタリア・バロック音楽のスタイルが理解されていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞を理解しておらず、イタリア・バロック音楽のスタイルが理解されていない。	10%
技術	・発声	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 姿勢、呼吸、共鳴の発声の基礎を習得している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 姿勢、呼吸、共鳴をある程度習得しているが、不完全さが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 姿勢、呼吸、共鳴が習得されていない箇所が複数見られ、また体に「力み」が感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 姿勢、呼吸、共鳴の習得には至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 姿勢、呼吸、共鳴の習得が全く見られない。	10%
	・母音の発音	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> すべての母音において美しい発音である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 母音の発音は8割できている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 正確に発音できない母音が3つある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 正確に発音できない母音が4つある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> すべての母音が正確に発音されていない。	10%
	・イタリア語発音	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア語の発音を正確に習得している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア語の発音の正確さは8割である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア語の発音において、不明瞭な箇所が見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア語の発音において、正確に発音されていない箇所が多数見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア語の発音が全く出ていない。	10%
	・イタリア古典歌曲のフレージング	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア古典歌曲のフレージングで歌唱している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア古典歌曲のフレージングが8割できている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア古典歌曲のフレージングが取れていない箇所が見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア古典歌曲のフレージングが取れていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> イタリア古典歌曲のフレージングが全く取れていない。	5%
表現	・暗譜力	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 高い読譜力で楽曲を暗譜している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞の間違いが1箇所ある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞の間違いが2箇所あるか、音程、リズムの間違いが1箇所ある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞の間違いが2箇所以上あるか、音程、リズムの間違いが2箇所ある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 歌詞、音程、リズムの間違いが多数みられる。	5%
	・歌唱表現力	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 声もフレージングも非常に良く、表現力に富んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 声もフレージングも良く、表現力も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 声またはフレージングに問題が感じられ、表現力があまり感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 声にもフレージングにも問題が多数あり、表現力が感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 声にもフレージングにも問題が多数あり、表現力が全く感じられない。	10%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 丁寧さがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	10%
	・インプレッション	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 、聴き手を魅了させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 良い印象の演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現力の感じられる演奏とはいえない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現力の感じられる演奏ではない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようとする意図が伝わっていない。	10%
意欲・態度	・レッスンに対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおけるの礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおけるの礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くなっていない。	5%

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

表6 1年前期声楽(主科)実技試験

1年前期声楽(主科)実技試験 ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	・イタリア語の発音 ・イタリア古典歌曲の様式	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共に非常によく理解しており、楽曲の構成感が感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共によく理解しており、楽曲の構成感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共に理解はしているが、楽曲の構成感がやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共に理解が不十分であり、楽曲の構成感をあまり感じられない。		20%
	・発声技術 ・歌唱技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声技術を習得し、表現と結びついた高い歌唱技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声技術を習得し、表現と結びついた歌唱技術で、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、発声・歌唱技術がまだ十分身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声・歌唱技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。発声・歌唱技術が全く身に付いていない。	35%
表現	・演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	32%
	・ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いがややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いに丁寧さが少ない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意欲・態度	・レッスンに対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くになっていない。	5%

表7 1年前期声楽(副科)実技試験

1年前期声楽(副科)実技試験 ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	・イタリア語の発音 ・イタリア古典歌曲の様式	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共に非常によく理解しており、楽曲の構成感が感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共によく理解しており、楽曲の構成感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共に理解はしているが、楽曲構成感がやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発音・様式共に理解が不十分であり、楽曲の構成感をあまり感じられない。		20%
	・発声技術 ・歌唱技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声技術を習得し、高い歌唱技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声・歌唱技術を習得し、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、発声・歌唱技術がまだ十分身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声・歌唱技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。発声・歌唱技術が全く身に付いていない。	35%
表現	・演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	32%
	・ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いがややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いに丁寧さが少ない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意欲・態度	・レッスンに対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くになっていない。	5%

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

表8 2年前期声楽(副科)実技試験

2年前期声楽(副科)実技試験 ルーブリック

大項目	小項目	S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価比率
知識・理解	・日本語の発音 ・楽曲の解釈	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 美しい日本語の発音で、作曲者の作曲意図の解釈や楽曲の構成感がよく感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本語の発音も良く、作曲者の作曲意図の解釈や楽曲の構成感も感じられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本語の発音は出来ているが、作曲者の作曲意図の解釈や楽曲の構成感がやや希薄である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本語の発音が不十分であり、作曲者の作曲意図の解釈や楽曲の構成感をあまり感じられない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 日本語の発音も不十分で、作曲者の作曲意図の解釈や楽曲の構成感が感じられない。	20%
技能	・発声技術 ・歌唱技術	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声技術を習得し、高い歌唱技術で、確実かつ安定している。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声・歌唱技術を習得し、確実性もある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲の形にはなっているが、発声・歌唱技術がまだ十分身に付いていない。確実性もやや欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 発声・歌唱技術が身に付いておらず、確実性も欠ける。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全く曲の形になっていない。発声・歌唱技術が全く身に付いていない。	35%
表現	・演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 伴奏者と共に非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、伴奏者との息も合っており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、伴奏者との息の合わない箇所が見られ、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、伴奏者との合わせも十分ではなく、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わっていない。	32%
	・ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いが自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いがややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージ上での立ち居振舞いに丁寧さが無い。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意欲・態度	・レッスンに対しての主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおいてのマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおいての礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおいての礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くになっていない。	5%

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

下記の表9は、声楽におけるルーブリック評価の表5、6、7、8の小項目を取りだし、その変化を表したものである。

表10は、声楽のルーブリック評価と昨年までのルーブリック評価を用いない演奏のインプレッションだけによる評価の、100点法採点の平均値対比である。

表9 声楽ルーブリック評価 小項目の変化

	1年前期声楽(主科)小テスト	1年前期声楽(主科・副科)実技試験	2年前期声楽(副科)実技試験
大項目	小項目	小項目	小項目
知識・理解	楽譜の理解 ・リズム、拍子感、強弱、プレス	・イタリア語の発音	・日本語の発音
	曲の解釈 ・歌詞 ・イタリア・バロック	・イタリア古典歌曲の様式	・楽曲の解釈
技術	・発声	・発声技術	・発声技術
	・母音の発音	・歌唱技術	・歌唱技術
	・イタリア語発音		
	・イタリア古典歌曲のフレージング		
表現	・暗譜力	・演奏表現の積極性	・演奏表現の積極性
	・歌唱表現力	・ステージマナー	・ステージマナー
	・ステージマナー		
	・インプレッション		
意欲・態度	・レッスンに対するの主体性	・レッスンに対するの主体性	・レッスンに対するの主体性
	・レッスンにおけるのマナー	・レッスンにおけるのマナー	・レッスンにおけるのマナー

表10 声楽のルーブリック評価とインプレッションによる評価の100点法の平均値対比

	ルーブリック評価	インプレッションによる評価
1年前期声楽(主科)小テスト、前期声楽(主科・副科)実技試験	75.5	75.6
2年前期声楽(副科)実技試験	75.5	73.6
1・2年前期声楽(主科・副科)実技試験平均値	75.5	74.6

【考察】

表9を見ると、ルーブリック評価の小項目が、1年前期声楽(主科)小テストから、1年前期声楽(主科・副科)実技試験と2年前期声楽(副科)実技試験では減少していることが分かるが、これは1年前期声楽(主科)小テストの小項目の数で評価を行うと、瞬時に採点がしにくく、歌唱中の採点が難しいことが判明し、それ以降の試験では改善点として、小項目の数を削減した経緯があった。その結果、採点は瞬時にできるようになったが、小項目の数が少ないた

め、学生への具体的でより細かな評価観点のフィードバックができなくなってしまった。小項目の数と採点時間の関係性が、実技におけるルーブリック評価の課題として浮き彫りとなった。

表10を見ると、1年前期声楽(主科)小テスト、前期声楽(主科・副科)実技試験におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は0.1点、2年前期声楽(副科)実技試験におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は1.9点、1・2年前期声楽(主科・副科)実技試験平均値におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は0.9点であったことが分かった。昨年まで行っていた学生の演奏をインプレッションでつけていた評価と、評価を項目ごとに可視化したルーブリック評価では、1年生においては僅かに0.1点の差、1・2年生全体の平均でも0.9点の差で、1点に満たなく僅差であることが検証できた。

しかし学生へのアンケートにおいては、「③ルーブリック評価は評価方法としてわかりやすいですか」の設問に対し、94%の学生が1か2の肯定的な回答をしており(表15)、昨年までのインプレッションだけによる評価との差は僅差ではあるが、ルーブリック評価は、学生への評価の事前提示、評価の可視化が可能となり、学生に対して効果的なフィードバックができる評価方法であるといえるのではないか。

#### 4. 管楽器のルーブリック評価

管楽・実技のルーブリック評価については、それぞれ異なった特性を持つ楽器を一つの評価基準に当てはめていくことが必要になってくるが、すべての管楽器に共通する基礎的技術、また音楽表現を、評価基準とすることとした(表11)。知識・理解の大項目においては、「アーティキュレーション」と、「テンポ・リズム・音程」の小項目2つを設定した。アーティキュレーションは器楽演奏にとって、とりわけ管楽器にとって非常に重要な事柄である。発音、音の終わり方、また、テヌート・スタカート・スラー等、音のキャラクターについて、アーティキュレーションの意味を広く解釈し、いわゆる音の処理の仕方について、評価基準を設定した。また、テンポ・リズム・音程についても、それぞれがその曲について楽曲の形式等を踏まえ、適切に行われているかを、評価基準としている。大項目・技術に関しては、「スケール」と、「音の響き」の2つの小項目を設定した。「スケール」については、毎回当日、調を指定し、間違いなく、広い音域において楽器を正しく響かせて演奏できるかを評価基準とし、「音の響き」については、楽曲演奏全体に於いて正しい奏法、ブレス(呼吸法)で演奏ができ、楽器をよく響かせることができているかを評価基準としている。表現の項目の評価については、他の分野と共通しているが、管楽の場合は、個々が自分の楽器を持ってステージに上がることも考慮して評価を行うものとする。意欲・態度については他の分野と共通とする。

音楽科実技科目におけるルーブリック評価の導入

表11 1・2年管楽実技試験

1・2年 管楽 実技試験 ルーブリック		S (100～90)	A (89～80)	B (79～70)	C (69～60)	F (59～50)	評価
知識・理解	アーティキュレーション	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 曲全体において適切なアーティキュレーションで演奏している	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ほぼ全体において適切なアーティキュレーションで演奏している	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 適切ではないアーティキュレーションが数箇所見られる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ほとんどアーティキュレーションが付けられていない	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全くアーティキュレーションを付けていない	10%
	テンポ・リズム・音程	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 正しいテンポ・リズム・音程で演奏している	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> テンポ・リズムあるいは音程が適切ではない箇所がある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> テンポもリズムも音程も適切でないところがある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> テンポ・リズム・音程が適切ではない箇所が多数ある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> テンポ・リズム・音程が適切ではない	10%
技能	スケール	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 間違えずにスムーズである	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 間違いないが途中で止まる箇所がある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 間違いが2、3カ所程度ある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 何度も間違える	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 全くできていない	10%
	音の響き	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ブレスがスムーズで、大変よく楽器を響かせている	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> パッセージによって音の響きがなくなるところがある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 音域・パッセージによって音の響きがなくなるところがある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 十分に楽器を響かせていない箇所が頻繁にある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 楽器をよく響かせていない	25%
表現	演奏表現の積極性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 非常に積極的に表現できており、聴き手を納得させる演奏である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 積極的に表現しようとしており、良い印象である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> やや積極性に欠け、表現力が乏しい。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 努力は窺えるが、表現できるところまで至っていない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 表現しようという意図が全く伝わってこない。	32%
	ステージマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 大変美しく丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 自然で丁寧である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ややぎこちない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 丁寧さが無い。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ステージマナーを理解していない。	3%
意欲・態度	・レッスンに対する主体性	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しながら十分な練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようと練習をしてレッスンに臨んでいる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢がやや不足しており、練習が十分でない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 技術や表現の課題を解決しようとする姿勢に欠け、練習不足が目立つ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンの準備を全くしていない。或は欠席が多い。	5%
	・レッスンにおけるマナー	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちが感じられ行動にも表れている。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> マンツーマンにおける礼儀作法ができており、相手を気遣う気持ちを感じることができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いにムラが見られる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 礼儀作法、気遣いがなされていないことが多く見受けられる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> レッスンに対してのマナーが全くなっていない。	5%

表12は、管楽器のルーブリック評価と昨年までのルーブリック評価を用いない演奏のインプレッションだけによる評価の、100点法採点の平均値対比である。

表12 管楽器のルーブリック評価とインプレッションによる評価の100点法の平均値対比

	ルーブリック評価	インプレッションによる評価
1年前期管楽器(主科)小テスト、前期管楽器(主科)実技試験	79.3	79.3
2年前期管楽器(主科)実技試験	75.3	74.3
1・2年前期管楽器(主科)実技試験平均値	77.3	76.8

【考察】

以上について、管楽器の評価基準としているが、これは、それぞれの楽器の特性を考慮しながら評価していくことが非常に重要事項となってくる。発音の方法、楽器の音域、それぞれの項目の難易度、これらについては、評価する側の正しい知識が必要であり、そのことを考慮することなく評価することは、不正確な結果を導き出すことになりかねない。この意味において評価者が事前・事後に丁寧な協議をすることが望ましいであろう。

課題についても同様に、楽器ごとの特性を超えて同じ評価上にのせなければならないことがあげられる。スケールについても、楽器により音域が異なり、全く違う形式のものとなってい

る。1オクターブを行う楽器と3オクターブを行う楽器とがあるが、これは楽器の特性上それぞれのねらいの違いから生じてくるものであり、評価の差になるものではないと考える。また、発音が容易な音域、そうでは無い音域が楽器により異なり、単に音が正確に出たかどうかで評価に差をつけることもできないことになる。

また、それぞれの項目の完成度を言葉で表すことに対して、いかに矛盾が出ないようにするかが今後の課題だと考える。ほぼ、ところどころみられる、ほとんど、といったあいまいな言いまわしや、大変よく、十分ではない、ややぎごちない、などといった基準も定かではなく、評価する側と、される側の解釈の違いが生じることが十分考えられる。

今後、ルーブリック評価を続けていくうえで、実技の到達度を言葉によって正確に表すことの困難さを考慮しつつ、試行錯誤を続け、両者が日ごろの教育からこれらに対して、共通の理解を深めていくことが必要不可欠になってくるものと思われる。

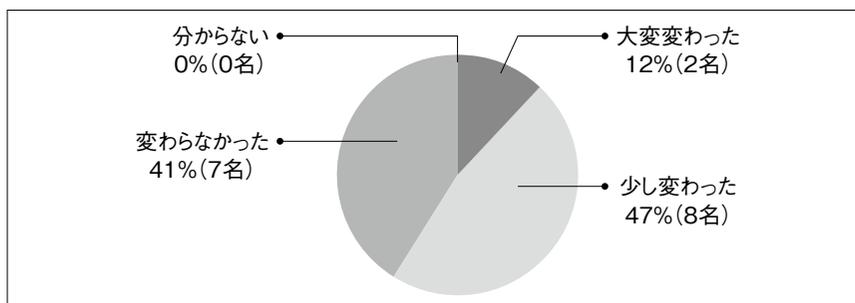
表12では、1年前期管楽器(主科)小テスト・前期管楽器(主科)実技試験におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は、全くなかった。2年前期管楽器(主科)実技試験におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は1.0点、1・2年前期管楽器(主科)実技試験平均値におけるルーブリック評価とインプレッションによる評価の差は、0.5点であったことが分かった。昨年まで行っていた学生の演奏をインプレッションでつけていた評価と、評価を項目ごとに可視化したルーブリック評価では、1・2年生全体の平均でも0.5点の差となり僅差であることが検証できた。

## 5. アンケート結果

1年生8名、2年生10名に対して、試験終了後にルーブリック評価についてのアンケートを実施し、1年生7名、2年生10名から回答を得た。結果は次の通りである。

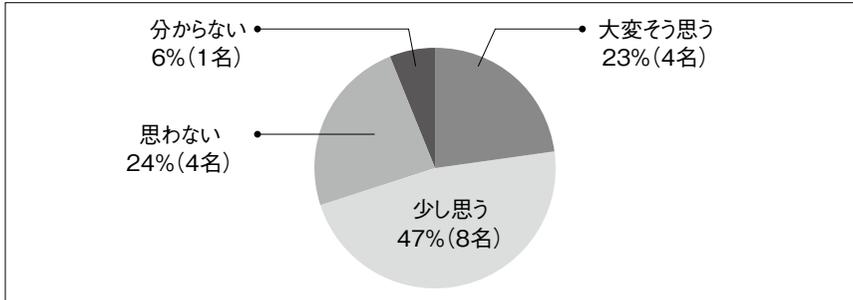
①前もってルーブリック評価を提示されて、テストに向かう姿勢が変わりましたか。(表13)

表13 設問①に対するアンケート結果



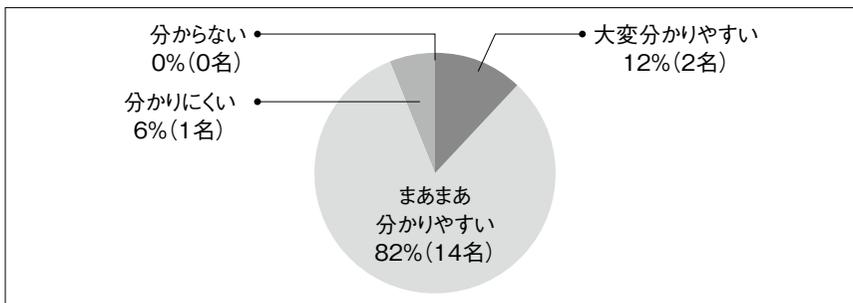
②前もってルーブリック評価を提示されて、テストの結果に反映されていると思いますか。  
(表14)

表14 設問②に対するアンケート結果



③ルーブリック評価は評価方法としてわかりやすいですか。(表15)

表15 設問③に対するアンケート結果



**【考察】**

「①前もってルーブリック評価を提示されて、テストに向かう姿勢が変わりましたか」の質問に対して、「大変変わった」、「少し変わった」の肯定的な回答が59%であった。半数以上の学生が、評価の事前提示によりテストに対して姿勢が変わったと回答しており、評価の事前提示に対して一定の効果があったと言えるのではないかと考えられる。 「②前もってルーブリック評価を提示されて、テストの結果に反映されていると思いますか」の質問に対し、「大変そう思う」、「まあまあそう思う」の肯定的な回答が70%であった。評価の事前提示で学生自身が評価観点を把握でき、その観点がテストの結果に反映されていることから、教員と学生間での評価の根拠が確認できたのではないかと考えられる。 「③ルーブリック評価は評価方法としてわかりやすいですか」の質問に対しては、「大変分かりやすい」、「まあまあ分かりやすい」の肯定的な回答が94%であった。これはルーブリックを用いて評価したことにより、評価が学生に可視化され、学生にとって評価が理解しやすくなったという効果が検証できたといえよう。

## 6. まとめ

昨年まで行っていた学生の演奏をインプレッションでつけていた評価と、評価を項目ごとに可視化したルーブリック評価の点数の差は、ピアノが0.05点、声楽が0.9点、管楽器が0.5点で、3専攻全体の平均でも0.48点となり、1点に満たないことが検証できた。これは音楽科の教員にとって、意外な結果であったといえよう。昨年まで行われていたインプレッションによる評価は、今回可視化したルーブリックによる評価の文言が、総合的にかつ感覚的に点数化されていた、ということであったともいえるのではないか。

しかし学生へのアンケートにおいては、「③ルーブリック評価は評価方法としてわかりやすいですか」の設問に対し、94%の学生が1か2の肯定的な回答をしており、昨年までのインプレッションだけによる評価との差は僅差ではあるが、ルーブリック評価は、学生への事前提示により試験に対してのモチベーションが上がり、マトリクスによる可視化により丁寧なフィードバックが可能となっており、次への学修指導に明確なビジョンを描くことができる有効な評価方法であることが分かった。

こういったルーブリック評価の可視化された客観的な学修成果のアセスメントは、各教員あるいは学科単位の質を保証し、更にルーブリック評価の導入を全学的な取り組みとするならば、内部質保証システムの構築に繋がるものとなるであろう。

## 7. 今後の課題

ピアノ・声楽・管楽器のルーブリック評価に対してのそれぞれの考察より、下記のような課題や問題点が見えてきた。

- ① 感覚的な部分が排除することができない音楽表現において、評価をどのような言葉で表していくのか。
- ② 音楽表現を言葉で記すことはある程度できるが、曖昧な表現になる場合も多く、その場合評価する側と評価される側との解釈の相違が生じる可能性がある。
- ③ 実技の到達度を言葉によって、どのように正確に表していくのか。
- ④ 個人差のある実技の到達度の捉え方はどのように評価していくのか。
- ⑤ 小項目の数と採点時間の関係性をどのようにしていくか。
- ⑥ それぞれの楽器の特性を考慮しながら、どのように評価していけばよいか。
- ⑦ 楽器ごとの特性を超えて同じ評価上にのせなければならない場合、どのように評価していけばよいか。

#### 執筆分担

横 溝 聡 子：はじめに， 1  
磯 部 哲 夫： 3, 5, 6, 7  
南 川 肇： 4  
深谷登喜子： 2

#### 引用文献

- 1) 中央教育議会答申(平成24年)：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」用語集，文部科学省ホームページ，[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/)
- 2) 小松太志・石原正道・松田理香：美術教育におけるルーブリック評価導入の妥当性の検討，郡山女子大学紀要第53集，345-352頁，2017.
- 3) 寺田貴雄・小林美喜子：音楽実技科目におけるルーブリックの設定ーピアノ演奏技術の学習過程の評価ー，北海道教育大学，2016.
- 4) 高瀬健一郎：音楽実技科目へのルーブリック導入の試み「基礎器楽(ピアノ)」における評価活動を題材として，常葉学園短期大学紀要第45号，225-238頁，2014.
- 5) 前掲書：227頁
- 6) リンダ・サスキー：学生の学びを測る アセスメントガイドブック，141-146頁，玉川大学出版部，2015.
- 7) 松下佳代：パフォーマンス評価による学習の質の評価ー学習評価の構図の分析に基づいてー，京都大学高等教育研究第18号，75-114頁，2012.

#### 参考文献

- ・ 沖裕貴：大学におけるルーブリック評価導入の実際ー公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指してー，立命館高等教育研究，第14号，71-90頁，2014.